

平成 29 年度事業報告

(平成 29 年 4 月 1 日－平成 30 年 3 月 31 日)

I. 会員数 (平成 30 年 3 月 31 日)

(1) 名誉会員

平成 29 年 3 月 31 日会員数	6 名	
名誉会員現在数	5 名	(1 名減)

(2) 正会員

平成 29 年 3 月 31 日会員数	1,073 名	
平成 29 年度新入会員数	93 名	
平成 29 年度退会者数	97 名	
内訳	希望退会者	97 名
	物故者	0 名
正会員現在数	1,069	(4 名減)

(3) 維持会員

平成 29 年 3 月 31 日維持会員数	89 社	
平成 29 年度入会社数	0 社	
平成 29 年度退会社数	1 社	
維持会員現在数	88 社	(1 社減)

II. 機関誌送本および販売数

(1) 送本数	会員区分	送本数
国内	名誉会員	9 冊
	正会員	1,767 冊
	維持会員	875 冊
国外	正会員	14 冊
国外	維持会員	1 冊
	小計	2,665 冊
(2) 販売数		110 冊
(3) 贈呈数	箇所数	送本数
国内	10	40 冊
国外	5	20 冊
	小計	60 冊
合計機関誌送本数		2,836 冊 (63 冊増)

(4) その他

機関誌を広告代理店に提供、バックナンバーとして販売。残部は在庫。

III. 第 64 回通常総会

開催年月日： 平成 29 年 5 月 26 日
開催場所： ビッグパレットふくしま

IV. 理事会、理事・評議員懇談会

(1) 理事会 3 回開催

- ① 第 1 回 開催年月日： 平成 29 年 4 月 28 日
開催場所： 東京大学農学部 3 号館 1 階会議室
- ② 第 2 回 開催年月日： 平成 29 年 11 月 16 日
開催場所： 中央大学駿河台記念館
- ③ 第 3 回 開催年月日： 平成 30 年 3 月 12 日
開催場所： 書面審議

(2) 理事・評議員懇談会 1 回開催

開催年月日： 平成 29 年 5 月 24 日
開催場所： ビッグパレットふくしま

V. 定期学術集会の開催

第 64 回日本実験動物学会総会を下記のとおり開催した。

会期： 平成 29 年 5 月 25 日（木）～27 日（土）
会場： ビッグパレットふくしま
会長： 大和田一雄（一般財団法人ふくしま医療機器産業推進機構）
参加者： 1,152 名

VI. 定期刊行物の発行

「Experimental Animals」および「実験動物ニュース」を下記のとおり発行し、会員に希望配布した。

発行年月日	巻	号	備考
平成 29 年 4 月 1 日	66	2	
平成 29 年 5 月 1 日	66	サブリメント号（電子配信）	
平成 29 年 7 月 1 日	66	3	
平成 29 年 10 月 1 日	66	4	
平成 30 年 1 月 1 日	67	1	

VII. 研究の奨励、業績の表彰

(1) 平成 29 年度学会賞受賞者を表彰した。

1) 功労賞 (2 名、五十音順)

鈴木 照雄 会員 (ハムリー株式会社)

米川 博通 会員 (東京都医学総合研究所)

2) 安東・田嶋賞 (1 名)

佐々木えりか 会員 (実験動物中央研究所)

「コモンマーマセットの遺伝子改変モデル作成技術確立とモデルとしての有用性
拡大」

3) 奨励賞 (2 名)

長谷川賀一 会員 (筑波大学生命科学動物資源センター)

「cre-loxP 遺伝子組換えレポーターマウスとドライバーマウスの開発析」

藤原 祥高 会員 (大阪大学微生物病研究所附属遺伝子実験センター)

「遺伝子改変技術を用いた雄性不妊モデルマウスの開発と機能解析」

4) 2016 年 Experimental Animals 最優秀論文賞 (1 編)

西谷あい、田中美有、清水佐紀、国澤直史、横江繭子、吉田裕作、鈴木登志郎、
佐久間哲史、山本 卓、桑村 充、竹中重雄、大野行広、庫本高志

Involvement of aspartoacylase in tremor expression in rats

「アスパルトアシラーゼ遺伝子は本態性振戦の発症に関与する」

(2) 2016 年日本実験動物学会国際賞の表彰を行った。

2016 年受賞者 (5 名)

フィリピン : Jennifer L. Lucero

シンガポール : Muhammad Ibrahim Bin Mazlan

スリランカ : Wasala Mudiyansele Kalpani Madhushika Ratnayake

タイ : Jarinthron Teerapornpuntakit

マレーシア : Nur Fazila Binti Saulol Hamid

なお、マレーシア Nur Fazila Binti Saulol Hamid は都合により来日できなかったため、
第 65 回総会において表彰する。

(3) 平成 30 年度学会賞受賞者を選考した。

1) 功労賞 (2 名、五十音順)

伊藤 豊志雄 会員 (実験動物中央研究所)

笠井 憲雪 会員 (東北大学)

2) 安東・田嶋賞 (1 名)

中潟 直己 会員 (熊本大学)

「マウス生殖工学技術の開発・改良とそれら技術の国際標準化に向けた取り組み」

3) 奨励賞 (2 名、五十音順)

濱田 理人 会員（筑波大学医学医療系）

「転写因子 MafB のマクロファージにおける機能解析」

和田 健太 会員（東京農業大学生物産業学部）

「順遺伝学に基づく眼球疾患モデル動物の原因遺伝子の同定」

4) 2017 年 Experimental Animals 最優秀論文賞（1 編）

高橋 剛、長谷川清香、福富友紀子、原田千鴻、古郡真宗、関 優太、吉川欣亮、
和田健太

A novel missense mutation of *Mip* causes semi-dominant cataracts in the *Nat*
mouse.

「*Nat* マウスの半優性白内障を引き起す *Mip* の新規ミスセンス変異」

(4) 2017 年日本実験動物学会国際賞の選考を行った。

2017 年受賞者（4 名）

中国 : Nana Zhang

台湾 : Yuan-Chi Teng

インドネシア : Fitriya Nur Annisa Dewi

韓国 : Dae Yong Yoo

VIII. 研究・調査活動

編集委員会、学術集会委員会、財務特別委員会、国際交流委員会、広報・情報公開検討委員会、動物福祉・倫理委員会、定款・細則・規定等検討委員会、実験動物感染症対策委員会、教育研修委員会、実験動物管理者研修制度委員会、人材育成委員会、将来検討委員会、動愛法等対策委員会、外部検証委員会を設置し、活動を行った。

IX. 関連学協会との連携

- (1) 日本学術会議、生物科学学会連合及び動物実験関係者連絡協議会の活動に協力した。
- (2) 国内の関連学会・協会との学術・情報交換を進め、その活動に協力した。
- (3) 国際実験動物科学会議（ICLAS）及びアジア実験動物学会連合（AFLAS）における活動を継続した。
- (4) 米国実験動物学会（AALAS）など、海外関連学協会との学術・情報交流を推進した。
- (5) 公益財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンターおよび日本動物実験代替法評価センター（JaCVAM）など実験動物・動物実験に携わる機関の活動に協力した。

X. その他

- (1) 平成 29 年度維持会員懇談会を実施した。（財務特別委員会担当）
講演会「ヒトの健康と疾患への腸内フローラの関わり」

- 話題提供「サイバニクスが拓く未来 ～人・ロボット・情報系の融合複合～」
平成 29 年 11 月 16 日、中央大学駿河台記念館、
参加者：78 名（維持会員 70 名、非会員 8 名）
- (2) 第 6 回実験動物科学シンポジウムを開催した。(学術集会委員会担当)
「宇宙における動物実験」
平成 29 年 12 月 1 日、文部科学省研究交流センター
参加者：198 名（会員 63 名、非会員 135 名）
- (3) 第 64 回大会期間中に 4 つの LAS セミナーを開催した。(教育研修委員会担当)
- ① 動物福祉・震災関連『自然災害に備えよう』（参加者：160 名）
 - ② “低侵襲化”動物実験基礎『3 種混合麻酔と MRI 画像診断～今更聞けない基本と基礎～』（参加者：149 名）
 - ③ 統計学基礎『動物実験における統計学～今更聞けない基本と基礎～』（参加者：131 名）
 - ④ 実験動物としての“ブタ”～今更聞けない基本と基礎～（参加者：107 名）
参加者合計：547 名
- (4) 第 9 回実験動物管理者等研修会を開催した。(実験動物管理者研修制度委員会担当)
平成 30 年 2 月 19-20 日 東京大学農学部 3 号館 4 階会議室
参加者合計：115 名（会員 21 名、維持会員団体職員 29 名、非会員 65 名）
- (5) 外部検証促進のための人材育成講習会を開催した。(人材育成委員会担当)
平成 29 年 8 月 4-6 日 東京大学弥生講堂セイホクギャラリー
平成 29 年 11 月 3-5 日、東京大学弥生講堂セイホクギャラリー
国動協、公私動協及び日本実験動物学会から推薦された外部検証専門員候補者 45 名が受講。
- (6) 平成 29 年度動物実験に関する外部検証事業として 27 機関の外部検証を実施した。
(外部検証委員会担当)
実施機関：国立大学 2 機関、公立大学 3 機関、私立大学 22 機関
- (7) 動物実験の外部検証：平成 30 年度の実施準備に向けた事前説明会を開催した。(人材育成委員会担当)
平成 30 年 1 月 16 日 東京大学弥生講堂一条ホール
参加合計：117 機関、190 名
- (8) 第 67 回日本実験動物学会総会の大会長を選出し開催概要を決定した。
会 期：平成 32 年 5 月 23 - 25 日（予定）
会 場：大阪国際会議場（大阪市）（予定）
大会長：塩谷恭子（国立循環器病研究センター）